

ラベルtoラベルを追求 リサイクル原料100%を目指す

グンゼ株式会社 プラスチックカンパニー

グンゼ株式会社の設立は1896年。機能ソリューション・メディカル・アパレル・ライフクリエイトの4つの事業から、多岐の分野で独自の技術開発に取り組んでいます。この内、機能ソリューション事業に属するプラスチックカンパニーは、シュリンクフィルム、ナイロンフィルム、OPPフィルム、軟質多層シート、機能チューブ・多層チューブの5品目を製造。PETボトルなどに使用されるラベル用フィルムのシェアは国内トップクラスです。また、創業より掲げる「共存共栄」の理念より持続可能な社会の実現に向けて、ラベルtoラベルに特化した活動を現実的に推進してきました。

あくなき技術革新、社会性と経済性の両立

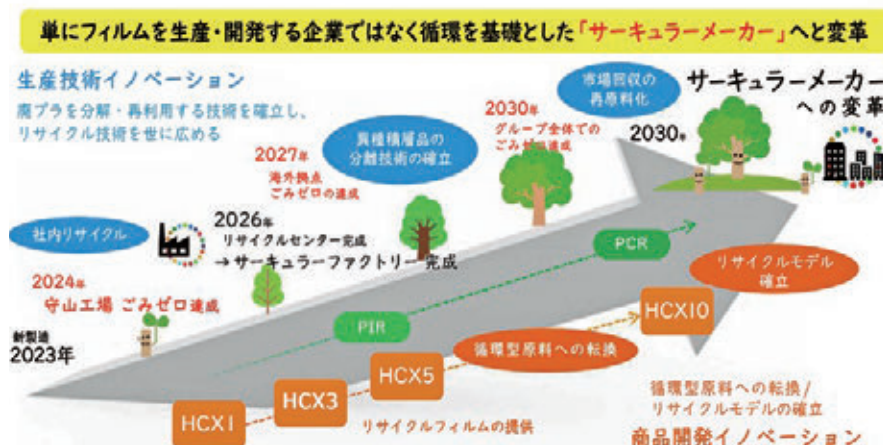
グンゼ株式会社では、社会性（環境）と経済性（コスト）の両立を念頭に生産技術イノベーション・商品開発イノベーションを用いた資源循環戦略での解決を目指してきました。その方法は、徹底したコストダウンの追求です。これにより、通常は石油化学原料よりコスト高となるリサイクル原料を適正に配合でき、現実的な価格帯で循環型製品の提供を可能にしています。

生産技術イノベーションとしては、1.ごみゼロ、廃プラの再資源化、2.製造工程を大幅に自動化することでの実質無人化、3.太陽光、地下水の自然エネルギーの活用（地下水を製造機器の冷却、空調に使用）となります。

2023年4月に本格稼働した基幹の守山工場は、2024年より資源循環型工場（サーキュラーファクトリー®）として、廃プラを出さないゼロ・エミッションを実現する工場へ転換。これまで活用されずに廃棄されていた製品や原材料などを新たな資源と捉え、廃棄物を出すことなく資源を循環させる仕組みを確立しました。2025年には、ごみゼロを目標達成の見込みに加えて、2027年には海外拠点においてもごみゼロを達成すべく技術革新を進めています。

商品開発イノベーションは、1.石油化学原料の削減、2.リサイクル原料の配合、3.リサイクル原料を使用した製品の回収。それを解決できる製品が、リサイクル原料を5%使用したGEOPLAS®（ジオプラス）HCX1タイプとなります。

■グンゼの資源循環ロードマップ



2023年4月に本格稼働した守山工場

この製品は、PET素材とPET素材の間に中間層としてPS（ポリスチレン）素材を挟んだ異種積層の最軽量ハイブリット収縮フィルムです。ケミカルリサイクル原料（マスバランス方式）を4%と印刷会社で発生した印刷端材を約1%使用。また、機能を維持したまま従来の厚さから薄くするために、PS層に透明性が高く硬い特徴の汎用ポリスチレン（GPPS）を使用することで25→23μm、35→33μmを実現しています。今後は、リサイクル原料の製造によってHCX3（30%使用）、HCX5（50%使用）、HCX10（100%使用）のようにリサイクル配合比率を高めながらサーキュラーメーカーとしての価値を高めてまいります。

プラスチック=悪ではない、資源として循環させる

新工場の稼働以来、数多くの見学依頼があり、取引先である各メーカーなどに加え、同業他社からの申し入れも受け付けています。環境への取り組みを損得で考えず、他社ともノウハウや考えを共有することで、業界全体の底上げに貢献できればと願っています。

また、環境保全において「プラスチック=悪」というネガティブなイメージがありますが、正しくリサイクルが行われ、廃棄物がなくなることで、それは必ず払拭されると考えています。これまで通り、プラスチックも循環できる資源であることを体現し続け、消費者との「共存共栄」と循環型社会の構築をグローバルで目指していきます。

（取材日：2025年2月21日）



花岡 執行役員 プラスチックカンパニー長

執行役員 プラスチックカンパニー長 花岡 裕史
プラスチックカンパニー
営業統括部 営業第二課 課長 眞下 誠
同 課 安田 彩乃

グンゼ株式会社
プラスチックカンパニー 守山工場
住 所：滋賀県守山市森川原町163
設備稼働：2023年4月
URL：<https://www.gunze.co.jp/plastic/>

プラスチックカンパニー 営業統括部
大阪：大阪府大阪市北区梅田2丁目5番25号
ハービスOSAKA オフィスタワー 21階
東京：東京都港区東新橋1丁目9番1号
東京汐留ビルディング15階